

第3回：地中海沿い山脈地域

地中海沿いの南北に走る山脈地域は、死海地溝帯の地質活動にもなって形成された。ダマスカスの南西には標高 2,814m のジャバル・シェイクで知られるハラムン山地が急峻な地形を刻んでいる。ダマスカスから北の部分はカラムン山地と呼ばれており、標高 2,500m 台の山々が連なる。レバノン北部の国境でいったん山容が途切れるが、アラウイン山地とザーウィエ山地がガープの低地を挟むように北に伸びてトルコの山岳地帯に連続している。降水は冬期に集中し、高所では大量の降雪となり、水資源の供給源となっている。

ダマスカスからベイルートに向かう途中の山間部はダマスカスを潤すバラダ川の水源地になっており、チェリー、アンズ、リンゴを中心とした果樹の重要な産地ともなっている。また、ジャバル・シェイクの山麓には風光明媚なリンゴ村が点在する。北部山間地でも土地利用が進んでおり、場所によっては山頂付近まで段々畑が続き、見事な景観を呈している。一部地域では古くから養蚕業が盛んであったが、近年衰退の一途を辿っており、桑の木が他の果樹に植え換えられつつある。また、この地域には自然植生であるシンディアン森も広く分布しており、一部ではレバノン杉の保護区も設定されている。

リンゴの生産地に共通の問題として、早春期の低温による花芽の凍結害がある。地元では古くから古タイヤや軽油を利用した燻蒸、スプリンクラーによる水の散布等の対策が取られている。最近では普及局が中心となって防霜ファンの導入に力を注いでいる。また、リンゴの栽培地域はいずれも標高の高い地域に分布しており、各河川の最上流部に位置している場合が多い。このため、栽培に使用する肥料や農薬が河川の水質を汚染する危険性が高くなっている。林業に関しては、FAO による社会造林プロジェクトが進行中である。植林活動の短期的な目的は、飼料木、燃料木、木の実等の生産であるが、長期的には防風効果や土壌保全効果さらには野生生物の保全効果につながる。本活動の問題点は、その土地を昔から様々な形で利用してきた地域住民との衝突である。今後は、持続的な農業あるいは畜産を推進するための総合的な森林管理を、地域住民の理解を得ながら発展させて行くことが重要な課題となっている。最後に WID に関連する話題であるが、山間部の農村女性は小麦や綿花といった畑作物を栽培する農村女性に比較して、農作業に従事する時間が短い。そのため、生産物である果樹や木の実の食品加工、あるいは絹織物といった農家の副収入増大に結びつく活動のポテンシャルが極めて高いと考えられる。今後、この辺りの活性化も極めて重要な課題になろう。



段々畑

リンゴ村



桑畑

社会造林

